経営協議会学外委員からの提言への対応　（平成28年度）

開催日	議　　題	意　　見　　等	対応状況等
第１回 28. 4.20	内部質保証システムについて	○体系図における「内部質保証，点検・評価等に関する中期計画」にある「様々な学外者の意見の取り入れ」，「監事機能の強化」及び「学長による部局長の業績評価」については，それぞれの意見をよく聞きながら進めていただきたい。	○「様々な学外者の意見の取り入れ」では，平成28年度の各学部業績評価におけるヒアリングに経営協議会学外委員の方々に参画願いご意見を伺うこととしている。また，報道機関との懇談会を平成28年度中に２回実施し，意見・要望を聴取して業務の参考にしている。「監事機能の強化」では，役員会を始めとした各種会議に監事が出席し意見を述べることが出来るよう各規程の改正を行った。「学長による部局長の業績評価」では，監事を含めた役員による学部長面談を行って面談結果をコメントとしてまとめ，部局長に通知している。
	宇都宮大学アクションプランについて	○難しい表現もあるので，今後，内容を更新する際には言葉の定義や解説も盛り込んでいただきたい。	○宇都宮大学アクションプランについては，現時点では大きな計画変更がないことから更新の予定はないが，アクションプランに対する成果報告書など関連資料の作成に際しては，出来るだけ平易な表現とするとともに，必要に応じて注釈・解説を添えることとしている。
	その他	○AIが進んだのではなく学生の読解力が落ちたという日経新聞の報道があったが，本学の附属学校の実状はどうか。中学生の読解力を高めるような援助をお願いしたい。アクティブ・ラーニングを上手く利用すれば，読解力向上に結びつくのではないか。	○授業では読むことの能力を育成するために，論理的・批判的思考力を育てようとしている。例えば生徒同士が文章の構成や展開はどうなっていくかを考えたり，話し合ったりしたり，ワークシートに書かせた意見についてグループ協議を行わせたりして思考を深め，読解力を高めている。また，論理的・批判的思考力を「力」としてだけでなく，「量」と考えて，読解するための多くの視点を獲得させようとしている。そのために，「クリティカルな読みの視点」と「視点を支えるスキル」を整理し，学習指導要領の指導項目とも対応させ，授業に活かしている。そして，中学校３年間の学習で体系的に観点を身に付けられるように，アクティブ・ラーニングを取り入れた年間指導計画も作成のうえ，指導している。

開催日	議　　題	意　　見　　等	対応状況等
第２回 28．6．8	その他	○日本経済新聞の報道では，岡山大学の中村教授が，最近は新しい地域問題を取り上げる学部が増えており，その持続性のためには，もっと地域や政策の分析を行い，それを適切にフォローできる人材を作らないといけないと指摘しているが，地域デザイン科学部の教員の略歴を見ると，その分野の方が少ないように感じる。	○地域デザイン科学部は，地域の課題を理解し，地域の資源や特性を活かして，まちづくりを支える人材を養成すべく設置された。高齢社会や福祉などの地域課題，食・文化や観光など地域の資源のほか，建築・建設工学や社会科学などを専門とする関連教員が，「文理融合」の大きな形で連携し教育研究にあたっている。地域や政策の基礎的分析については，学部附属「地域デザインセンター」にスタッフを配置し取組み，その成果を学部共通授業に活かしている他，学科カリキュラムでも実施している。たとえば，コミュニティデザイン学科では，コミュニティ政策・公共事業評価・社会福祉などの各種個別政策を専門とする教員が教育研究を担当しており，また，社会調査士資格取得が可能なカリキュラムになっている。学生は地域社会や地方自治の本質的理解の上にそれらの内容を学修している。指摘を受けて，「地域デザインセンター」の機能をより強化したほか，学科専門教育でも地域や政策の分析や評価に関わる教育を体系的に整理し内容の充実を図っている。
		○国際学部に入学すれば，必ず海外留学を経験できることをもっとアピールしていただきたい。留学が長期になると経費の問題があるとも伺ったが，全員に１年間の留学を経験させている大学もある。大学の努力としては交換留学先を増やすことも重要である。また，留学するのならTOEICだけでなくTOEFLも必要だと思うので，さらに英語能力を高めていただきたい。	○平成29年度入学者より，交換留学や海外語学研修，インターンシップ等の海外体験が卒業時までにできるように，海外インターンシップやオーストラリアの英語研修，台湾での中国語研修等の実績を踏まえ，組織的な取り組みを始め，入学希望者等ステークホルダーに対し様々な形でアピールしている。新たな交換留学等の可能性も検討しており，学内外からの資金援助拡充に努めている。英語能力の向上についても組織的対応を進めており，TOEIC，TOEFL，IELTSなどの受験を推奨することとしている。

開催日	議　　題	意　　見　　等	対応状況等
第４回 28.10.26	宇都宮大学基金【新】の創設について	○経済界へのアピールも必要だ。栃木県経済同友会等を通じて地域企業への働きかけも検討してはどうか。また，学生支援については，国の方では給付型奨学金の検討も開始されているので，本学においても学生支援を充実させ，優秀な学生を獲得していただきたい。	○経済界へのアピールに関して，過去に本学への寄附実績のある地域企業等へ３Ｃ基金の案内を行いながら，栃木県経済同友会等を通じた働きかけについて，具体的な方策を検討しているところである。 学生支援を充実させるための方策として，また，優秀な学生を獲得するための方策として，新たに２つの給付型奨学金を創設した。 ・宇都宮大学３Ｃ基金「入学応援奨学金（予約型奨学金）」：本学への入学を希望しながら，経済的理由により進学を断念せざるを得ない栃木県内の高校に対して，入学時に必要となる学資の一部を奨学金として給付することを目的とした奨学金。 ・宇都宮大学３Ｃ基金「飯村チャレンジ奨学金」：チャレンジ精神と夢にあふれる学生が学業に専念できるよう支援することを目的とした奨学金。
第５回 29. 1.19	教教分離の実施について	○人事評価はどのような考え方でここに反映されているのか。民間では人事考課というものがあるが，教員毎にひとつのプログラムとして，がんばっている教員を伸ばすためのインセンティブを備えた人事評価についても大いに取り組んでいただきたい。	○教員の人事評価（教員評価）については、新たな評価制度を導入するため、企画広報担当理事の下にWG（各学部の教員1名）を設置して検討を行っている。 新たな評価制度では、評価領域毎のエフォートの設定、評価項目の点数化による客観的評価とそれをレーダーチャートで示すことによる可視化、数値のみにとらわれず自らが頑張った取組をアピールする特記事項欄の設定、これらを踏まえた自己分析など、重層的な視点からきめ細かな評価が可能となるような制度設計としている。なお、評価結果によるインセンティブについては、従来の評価同様、勤勉手当への反映などを行うこととしている。

開催日	議　　題	意　　見　　等	対応状況等
第６回 29. 3.22	平成28年度中間監事監査意見(報告）書について	○学長裁量経費等を活用して，さらにTA・RAの活用を増やしていただきたい。	○ＴＡ・ＲＡ経費については，若手研究者としての研究遂行能力の向上や研究者意識の醸成に資するため，厳しい財政事情の中，学内予算を確保し，大学院学生の処遇改善や経済的支援を図っている。今後も，教育的配慮の元に，さらなるＴＡ・ＲＡの活用を推進するため，国からの各種補助金の獲得を積極的に行い，予算の確保に努めていくこととしている。
	第２期中期目標期間の教育研究評価に係る評価結果（案）について	○エビデンスは学生にも知らされているのか。学生のモチベーションを高めるためにも，ここだけに終わらせず，学生に徹底してあげるとよいのでは。	○評価結果確定後，他の国立大学の評価結果や取組内容を踏まえた分析，本学の強みを整理のうえ，学生のモチベーションを高めるための学内広報等を作成し，学生に周知徹底することとしている。